

2. 主な環境指標の実績および将来目標

(1) 火力発電所の発電電力量増加に伴う環境負荷の増加

原子力不祥事に伴って運転を停止した原子力発電所の発電電力量を補うため、火力発電所による発電電力量を増加させた結果、環境負荷（CO₂、SO_x、NO_x）は総じて増加する結果となりました。

* 原子力設備利用率：2001 年度実績 80.1% 2002 年度実績 60.7%

a. CO₂

原子力発電所の発電電力量の減少を補うために長期停止中の火力の再開に努めたことや、販売電力量が増加（2.3%増）したことなどの影響から、CO₂排出量は前年度に比べて23%（2,000万t）増加、排出原単位は20%増加（1990年度とほぼ同値）となりました。

2010年度のCO₂排出原単位目標「1990年度比20%低減」達成に向け、安全を最優先とした原子力発電の運転ならびに着実な開発を進めるとともに、今後も原子力の利用率や火力発電熱効率の一層の向上、京都メカニズム活用などの諸方策を組み合わせ、排出削減に取り組んでまいります。

	実績(年度)			将来目標 2010年度
	1990	2001	2002	
CO ₂ 排出原単位 (kg-CO ₂ /kWh) ^(*1)	0.382	0.317	0.381	1990年度比20%削減 0.31程度
CO ₂ 排出量(万 t)	8,410	8,740	10,740	
販売電力量(億 kWh)	2,199	2,755	2,819	

(*1) kg-CO₂/kWh：販売電力量1kWh当たりのCO₂量

b. SO_x, NO_x

CO₂と同様に、原子力発電所の発電電力量の減少を補うために長期停止中の火力の再開に努めたことなどから、SO_xを排出する、あるいはNO_xの排出量の多い石油火力発電の比率が上昇したため、SO_xの排出原単位は前年度に比べて2倍、NO_xの排出原単位は1.5倍となりました。

	実績(年度)			将来目標 2012年度
	1990	2001	2002	
SO _x 排出原単位(g/kWh)	0.17	0.05	0.10	0.1以下
NO _x 排出原単位(g/kWh)	0.22	0.08	0.12	0.1程度

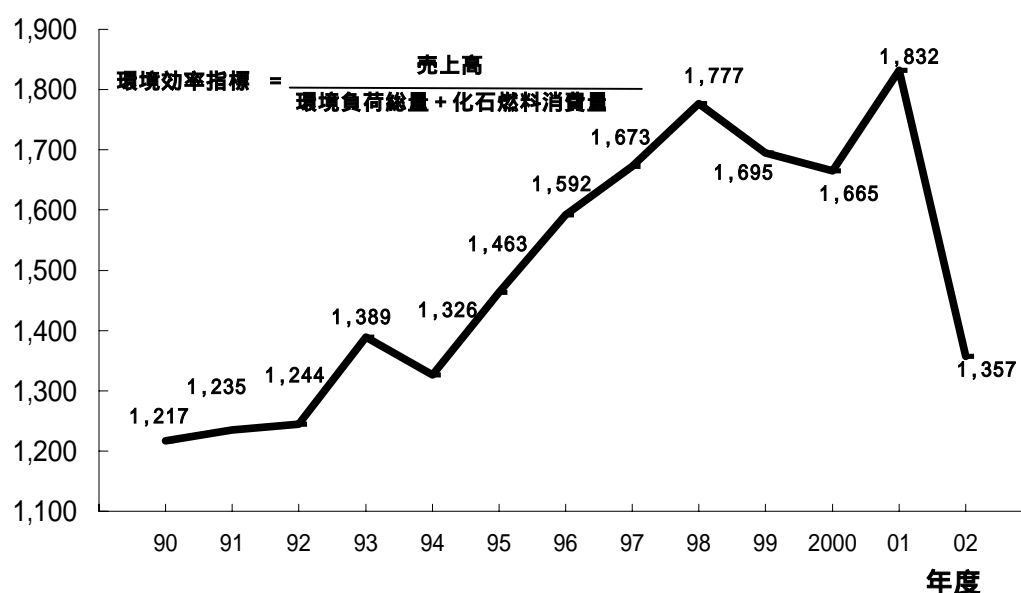
c. 環境効率 (Eco-efficiency) 指標

環境効率指標は、2001年版にCO₂、SO_x、NO_xなどの環境負荷物質排出量と経済価値(売上高)の比として初めて導入しました。2002年版からは環境負荷の一要素である、「資源の消費(化石燃料消費量)」を評価対象に追加し、環境効率を評価することといたしました。

2002年度は、CO₂、SO_x、NO_x排出量と化石燃料消費量の増加に加え、売上高も減少していることから、環境効率指標は前年度に比べて約26%低下しました。これは同指標に関する10年前とほぼ同等の水準になっています。

環境効率指標の推移

環境効率指標



- (注)・売上高は電気事業営業収益
・環境負荷総量および化石燃料消費量は、複数の環境負荷物質(CO₂、SO_x、NO_x)、化石燃料(重油、原油、LNG)消費をそれぞれ各物質および燃料種の環境影響度合いにより重み付けして合計(統合化)したもの。重み付けに用いた係数は、代表的な統合化手法の一つである「IOインデキータ99」に基づいて設定。

(2) 産業廃棄物の総合リサイクル率は97%に向上

前年度に比べて品目ごとのリサイクル率が向上(貝類:45 70%,コンクリート屑:86 99%)したことにより、総合リサイクル率は前年度実績を2ポイント上回る97%となりました。「2005年度までに産業廃棄物の総合リサイクル率100%」という目標の達成に向け、今後も廃プラスチック(31%)、保温材屑(50%)などのリサイクル率向上へ重点的に取り組みます。

		実績(年度)		将来目標 2005年度
		2001	2002	
総合リサイクル率(%)		95	97	100%を目指す
個別廃棄物 リサイクル 率(%)	A群:廃コンクリート電柱等(*1)	100	100	現状(100%) を維持
	B群:汚泥、貝類、がれき類等(*2)	79	89	100%を目指す
	C群:金属屑、廃プラスチック等(*3)	92	95	同上

(*1) 既に100%リサイクルを達成した廃棄物

(*2) 従来リサイクルが十分に図られていない廃棄物

(*3) 分別が困難な混合廃棄物

(3) 自社用エネルギー・資源消費量は全て改善

日常業務における社員一人ひとりの環境意識向上を図るべく、2001年度より自社内で使用する「事務所内電気使用量」「生活用水使用量」「車両燃費」「コピー・プリンター用紙購入量」のエネルギー・資源4項目について削減目標を設定し、全社的に取り組んでおります。

4項目全てに関し、2001年度に比べて改善が図られました。特に「生活用水使用量」では、全店大の2005年度目標を3年繰り上げて達成するという顕著な成果がありました。今後も各事業所の目標を設定し、その達成に向けて取り組みます。なお、2003年度よりこれらの目標・実績については店所業績評価の対象としています。

	実績(年度)				2005年度目標 (2000年度比)
	2000	2001	2002	削減率 (2000年度比)	
事務所内電気 使用量 (100万 kWh)	305	298	278	9%	15%削減
生活用水使用量 (万 m ³)	222	194	165	25%	15%削減
車両燃費(l/km) (走行距離当たりの燃料 消費量)	0.112	0.109	0.105	6%	20%改善
コピー・プリンター用紙 購入量(億枚・A4 換算)	4.0	3.6	3.3	18%	50%削減

(4) 一般廃棄物リサイクルに関するチャレンジングな目標設定

当社は、資源循環型社会の構築を進めるべく、産業廃棄物のリサイクル率100%(2005年度までに)を目指した取り組みを進める一方、一般廃棄物(オフィスごみ)についても、定量的な目標を設定します。具体的には、本店をモデル事業所として一般廃棄物リサイクル率についても、2005年度までに100%達成をめざします。

ごみを資源として回収するために、分別方法を従来の11分類を17分類へ変更してリサイクルを進めるとともに、リデュース、リユースにも取り組んでいきます。今後は本店だけでなく全店展開も視野に入れて検討を進めます。

(注)従来の11分類：コピー紙，カラー印刷・雑誌，新聞紙，段ボール，シュレッダー，たばこの吸い殻，茶殻，ペットボトル，ピン，缶，ごみ箱内のごみ

今後の17分類：上とほぼ同様だが，<追加>ミックスペーパー，雑ゴミ，廃プラスチック，複合形成物，金属くず，電池，蛍光灯，<除外>ごみ箱のゴミ

複合形成物... プラスチックと金属の一体成型物，電卓，100円ライター，電話，時計など

以 上